

序

ここから始める！麻酔科研修

本書の前身である「100倍楽しくなる麻酔科研修30日ドリル」は、麻酔を学ぶ**臨床研修医**、**メディカルスタッフ**を対象に、「教科書的な学習内容と、実際の臨床現場をツナグ」ための、自学自習用教材（ワークブック）として誕生しました。私もこの30日ドリルを使用して、約7年間ほぼ毎日指導にあたりました。「ドリル〇日目やってきました。」と言ってくれる研修医と、答え合わせをして（解答は私が預かっています）、ハナマルを書き、麻酔について話し合う時は、とても楽しい幸せな時間でした。研修医の先生たちから私が教えられることも多々ありました。

その後、麻酔薬剤、方法、環境も大きく変化しました。研修1年目の麻酔科研修期間は、2020年度よりなぜか4週間以内に短縮されました。学ぶ意欲はあっても、短い研修期間ゆえに消化不十分な場合もありました。

そこで共著者の讃岐先生と相談し、週5日間（土日は休み）、4週間で20日分の課題「20日ドリル」を出版することにしました。短い研修期間だからこそ時間を無駄にしないために、麻酔科研修の間に「**これだけは学んで欲しい!**」内容をしぼりました。1日分の学習のチェックポイントを読み、ドリルを解くのに、20～30分程度で完了し、毎日続けられるようにまとめました。「20日ドリル」になっても、すぐに臨床現場で役立つように、現場でつまずくところが理解できるように、「**学習と実践の間をツナグ**」という本書の本質は変わりません。カンファレンスや臨床現場でわからない語句がでてきた場合は、巻頭付録の略語表から参照ページを見つけてください。

麻酔科は、自分の使用する薬剤、施行する手技、戦略が、すぐに患者の状態と直結する、それはときに生命をも左右する、ダイナミックな現場です。故に学んで欲しいことは、まだまだ沢山あります。「これだけは」に留まらず、「ここから始めて」自らの学びを増やして欲しいと思います。本書を、読者の皆さん、指導医の皆さんの「ここから始める麻酔科研修」の一助にいただければ幸いです。

2022年5月

青山和義

序

麻酔科研修に興味があるが、研修医向けのテキストが読みこなせない。表面的な理解しかしていないように思う。どこがポイントかがイマイチわかりにくい。計算や導き方がわからないなど思い当たる節はありませんか。さまざまな要因で足踏みをしている研修医や看護師、薬剤師などがいることを筆者は見てきました。小学校のドリルのような手法で楽しく学ぶための工夫を盛り込んだ本書「麻酔科研修20日ドリル」は、そのような不安がつよい研修医や麻酔科を理解したい医療従事者のために生まれました。本書の前身の「100倍楽しくなる麻酔科研修30日ドリル」は、すこしボリュームがありすぎました。その部分を見直して20日のできるようにしたこと、1日のボリュームを減らして学びやすくした点が大きな改正点です。もちろん、内容も時代に合わせて新しくしました。毎日、少しずつドリルをこなすことで、麻酔科研修が楽しくなります。

本書は鉛筆と消しゴムを用意して、書き込みながら使います。始めてみれば、その楽しさが少しわかります。わからなかったところ、間違えたところは、各単元の冒頭に示した参照先にしたがって、参照書籍にもどって復習しましょう。何度も調べたり、書き込んだりすることで知識は定着します。間違えたところは、チェックをして2度目、3度目に挑戦してください。そうして続けていくうちに、麻酔科の知識が定着していきます。得意になれば麻酔科の世界に引き込まれるでしょう。

このドリルをこなしつつ、実際の麻酔科臨床に臨んでください。そうすれば、必ずや麻酔科の専門医のやっていることや、その考え方に触れることができると確信します。

なぜ、麻酔科研修が楽しくないか？ その答えは、やっていることが理解できないからかもしれません。半分は自分のせい、残りの半分は麻酔科指導医のせいです。麻酔科指導医のせいというのは、本書ではどうしようもありませんが、自分のせいの分は取り返せます。

さあ、はじめましょう。20日後には、すこし成長した自分があるはずです。

2022年5月

讃岐美智義